

名古屋市文化振興計画2020（案）

概要版

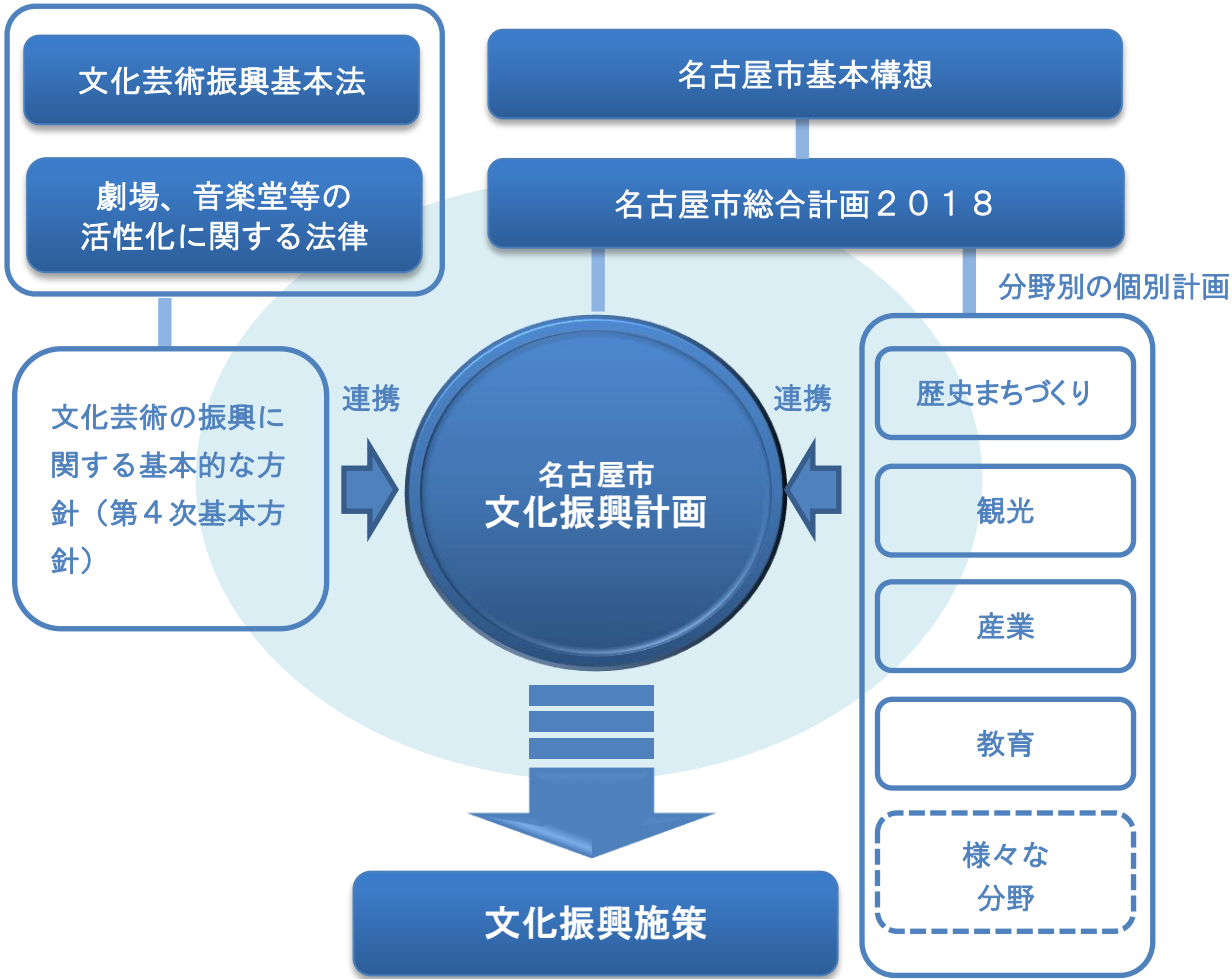
（平成29年度～）

平成28年12月

名古屋市

1. 策定の主旨

本市は、平成 21 年度に名古屋市文化振興計画を策定しました。平成 25 年度の重点プロジェクトの改訂を経て、総合的・計画的に文化振興施策を推進してきましたが、文化を取り巻く潮流、国の動向、本市文化行政を取り巻く環境に対応することで、より名古屋の文化を振興するために、次期の文化振興計画を策定します。

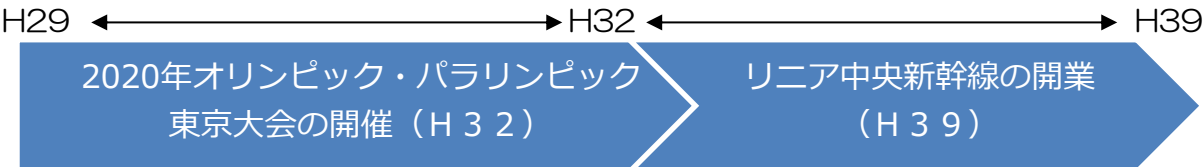


文化芸術の定義

この計画において「文化芸術」とは、文化芸術振興基本法における芸術、メディア芸術、伝統芸能、芸能、生活文化等、文化財を主な範囲と考えます。

計画期間

概ね 10 年先を見据えた、平成 29 年度から平成 32 年度までの 4 年間



2. 文化振興施策の潮流

①文化芸術を取り巻く潮流

○グローバル化の進展

- ・市民が国内外の多様な文化を享受しやすくなり、国内外の文化人・芸術家などの相互交流の進展
- ・地域文化の創造性やアイデンティティの危機

○都市活力の向上

- ・人材・モノ・資金・情報が集積・交流し、経済力と文化力を両輪とした都市の活力の向上

○価値観やライフスタイルの多様化

- ・文化が持つ、豊かな人間性を育む力、創造性や感性を養う力、他者と共感し合い人を結び付けていく力など、様々な力の活用

②国の文化政策の動向

○文化力

- ・文化力は文化政策の基軸となるキーワード
- ・人々に元気を与え地域社会を活性化させて、魅力ある社会づくりを推進する文化の力
- ・観光、国際交流、産業振興、まちづくり、福祉、教育など様々な分野で活用
- ・文化力を活用し、都市イメージの向上、経済活性化、生活の質の向上などの実現に向けた取り組みが進展

○劇場、音楽堂等の活性化に関する法律

- ・劇場、音楽堂を、専門的人材が様々な事業やサービスを行う機関と位置づけ
- ・長期的視点に立った運営方針の設定、創造性及び企画性の高い事業、適切な評価、専門的人材の養成・確保、指定管理者制度の適切な運用などを提示

○アーツカウンシル

- ・文化芸術に対する助成の審査、事後評価、調査研究などを行う専門家による第三者機関だが、その機能や組織体制は様々
- ・2020年オリンピック・パラリンピック東京大会での文化プログラムの実施を契機として、都道府県、市町村などにおける将来的な地域版アーツカウンシルの創設を推進

○創造都市

- ・各都市で文化芸術の持つ創造性を活かした産業振興や地域活性化について目覚ましい成果
- ・ユネスコの創造都市ネットワーク事業に名古屋市はデザイン部門において認定・参加

3. 市の現状

- 芸どころなごやの気風が培われ、ものづくり文化の礎
- 文化や芸術に触れることを大切だと思う市民は 88%
- ホールや美術館などで直接鑑賞をした市民の割合は減少傾向
- 市内在住の文化関連就業者数が減少
- 名古屋を文化的なまちだと思う市民は 57%
- 子どものための巡回劇場(昭和 55 年度～)や市民芸術祭(平成 2 年度～)など、継続して開催
- やつとかめ文化祭(平成 25 年度～)など、まちなかで新たに開催
- 平成 28 年度、昭和文化的小劇場の完成により、15 館の整備完了
- この 10 年で相次ぐ市内の大中規模ホールの閉館

4. 市の文化芸術の課題

文化行政全般

- * 社会の変化、国の文化振興施策の変化への対応
- * 2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催や、2026 年アジア競技大会の愛知・名古屋での開催、2027 年度のリニア中央新幹線(東京－名古屋間)の開業など、都市課題への対応

都市魅力の創造・発信

- * 名古屋にゆかりのある芸術作品や芸術家を誇りに思う市民は一部
- * 名古屋らしい文化芸術の創造と情報発信
- * 文化芸術に関する情報提供の拡充とアーカイブ化

文化力の活用

- * 文化の持つ力を、観光、産業、福祉、教育、地域コミュニティなど様々な分野で活用
- * 市民の文化活動を支える中間支援組織、文化芸術の活用をコーディネートする人材の育成

文化の基盤づくり

- * 文化に親しみやすい環境をつくとともに、優れた芸術を鑑賞する機会の充実、文化施設を鑑賞する人の育成
- * 文化芸術にかかわる人たちが生計を立てていくことが難しい状況が継続

文化施設

- * 施設の設置目的の効果的な達成
- * 安心・安全に利用できる施設としての改修、整備

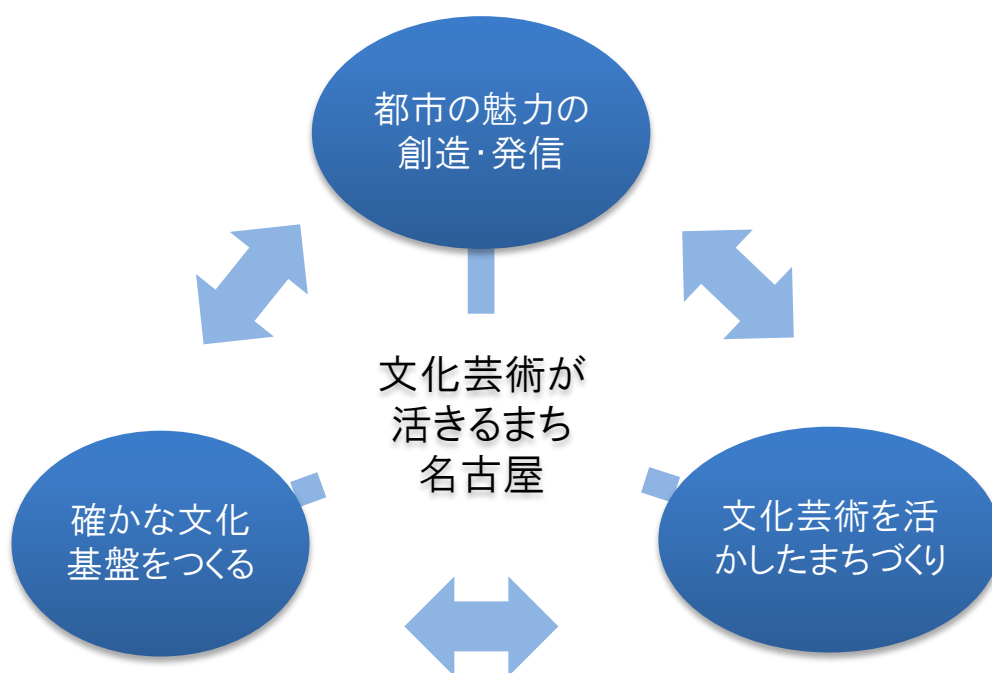
連携と推進体制

- * 芸術家と市民、企業などを結ぶコーディネーターの存在が重要
- * 地域課題の解決につなげるため他施策との連携
- * 市民や企業などの文化活動の支援や大学との連携が必要

5. 文化振興の基本的な考え方

文化芸術が生きるまち 名古屋

名古屋市では、これまでに蓄積されてきた文化・歴史資源を「まちの記憶」として継承し、市民の活発な文化活動や芸術家などの意欲的な創造活動など確かな文化基盤のもと、都市の魅力を創り、育て、届けるとともに、複雑化する社会的課題の解決に向けて、文化力がまちなかに広がり、活用される「文化芸術が生きるまち」としての取り組みを積極的に進めます。



6. 施策

都市の魅力の創造・発信

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催や、2026年アジア競技大会の愛知・名古屋での開催、平成39（2027）年度のリニア中央新幹線（東京―名古屋間）の開業を活かしながら、都市間競争に打ち勝つ「魅力と活力にあふれるまち」を実現するために、豊かな創造力をもった文化芸術は重要な要素です。この4年間で、文化芸術によって個性豊かな都市の魅力を長期的な視点で創造し、発信していく仕組みづくりを進めます。

新進芸術家などの創造活動の支援

- ② 新進芸術家などの支援
- ② コンペティションなどの開催
- ② 文化芸術活動への表彰・顕彰
- ② 芸術創造センター、青少年文化センターの創造機能の強化
- ② 名古屋版アーツカウンシルの検討・設立

国内外から注目される文化芸術活動の創造・発信

- ② 都市を代表する芸術家・団体の活動支援
- ② 国際的な美術展・芸術祭などの開催
- ② 質の高い公演・展示を鑑賞する機会の充実
- ② 文化プログラムの展開への対応
- ② 名古屋の文化芸術の国内外への発信

文化・歴史資源を活用した魅力づくり

- ② 都市の文化・歴史資源を活用した事業やイベントなどの実施
- ② 芸術家などが集まる創造界隈の形成、連携
- ② 歴史的建造物や歴史的町並みの保存・活用
- ② 重要伝統的建造物群保存地区の魅力向上・発信
- ② 名古屋城を核とした魅力づくり

情報発信力の強化

- ② 文化情報の一元的集約及び編集
- ② 文化情報の国内外への発信
- ② ユネスコ創造都市ネットワークの活用
- ② 市民が情報を共有できるネットワークづくりの支援
- ② 文化情報のアーカイブ化

❖ アクションプラン ❖

○新進芸術家などへの支援体制づくり

新進芸術家に対する活動の場の提供として、ファン・デ・ナゴヤ美術展などの公募型の展示会や、演劇や舞踊、音楽などの舞台芸術創造事業を実施します。また、伴走型支援のために、名古屋版アーツカウンシルの設置を進めます。

○芸術創造センターと青少年文化センターを核とした創造と発信

名古屋市芸術創造センター、名古屋市青少年文化センターにおいて、総合舞台芸術など名古屋らしさを意識した創作に取り組み、芸術家の育成を図るとともに、ロングラン公演や市外での上演などを企画、国内外に情報を発信します。

○名古屋の文化芸術の国際発信

名古屋の魅力を国内外に発信するため、名古屋フィルハーモニー交響楽団の活動を引き続き支援するとともに、あいちトリエンナーレ、やっとかめ文化祭、アッセンブリッジ・ナゴヤなどを開催します。

○都市の魅力を発信する公募型事業の実施

市民が都市の魅力を深掘りする文芸や美術などの公募型事業を実施します。入選作品は、広く市民が目にする場所に掲示するなど周知方法を工夫します。

○重要伝統的建造物群保存地区の活用

重要伝統的建造物群保存地区として選定された有松地区の歴史的建造物を、文化芸術の発表の場や、商業施設・展示施設などに活用します。また、絞り染めや山車など、有松固有の歴史的資源を活用したイベントなどを実施し、まちの魅力を創出し、広く発信します。

○名古屋城を核とした魅力づくり

「特別史跡名古屋城跡保存活用計画」を策定し名古屋城跡の保存活用を適切かつ確実に進め、名古屋城を核とした魅力の発信を図ります。

○情報発信力の強化

文化芸術の情報を集約し、整理したものを広く市民に提供するために、ウェブサイトなど情報媒体を強化します。また、市民や文化関係者が主体的に名古屋の魅力となる文化情報を共有し、発信する取り組みを支援します。

文化芸術を活かしたまちづくり

文化芸術は、観光や産業、福祉・医療、教育、地域づくり、減災・災害復興など、様々な分野で、複雑化する社会的課題にしなやかに対応していく力をもっています。また、これまで蓄積されてきた文化・歴史資源は本市の大きな財産です。人と人を、人とまちをつないでいく文化芸術のコーディネート機能やまちの魅力を高めていく機能などに注目し、この4年間で、名古屋の文化芸術の可能性をより広げていきます。

社会的課題の解決への活用

- ④ 文化芸術を活かしたまちづくりに取り組む人材や中間支援組織の支援
- ④ 文化芸術による地域の活性化
- ④ 文化小劇場を拠点としたまちづくり活動の促進・交流の支援
- ④ コーディネート人材の育成

文化芸術と観光・産業の好循環づくり

- ④ 観光客や訪日外国人を視野に入れた文化芸術イベント開催支援や作品の製作
- ④ 文化・歴史資源を活かした観光振興
- ④ クリエイティブ産業の振興
- ④ ユネスコ創造都市ネットワークの活用

文化芸術を活用した都市空間の形成

- ④ まちなかでの文化芸術活動の推進
- ④ 歴史まちづくりの推進
- ④ 良好な都市景観の維持・形成
- ④ 名古屋駅、栄、金山駅地区などのまちづくりにおける広場や公共的な空間の創出・活用

文化・歴史資源の保存・継承・活用

- ④ 文化・歴史資源を活かしたイベントなどの開催
- ④ 文化財などの指定・保存・継承支援
- ④ 歴史の里の整備・活用
- ④ 名古屋城の整備

❖ アクションプラン ❖

○コーディネーター人材の育成

文化芸術のもつ力を活用したまちづくりをコーディネーターする人材の育成を図るため、セミナーなどを開催します。その際には大学などと連携するとともに、地域と密接な連携をもつ各区の文化小劇場を拠点として活用します。

○公募による総合型支援の実施

文化芸術と社会的課題が結びついた事業を支援する制度を創設します。また、未利用施設を活用し、アートとまちづくりをつなげる活動など、他分野の施策との連携を図ります。

○文化・歴史資源の魅力を発信する事業の実施

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向け、多言語化への対応などをはじめ、観光客や訪日外国人を対象とした、やっとかめ文化祭など文化・歴史資源の魅力を発信する事業を実施します。

○ユネスコ創造都市ネットワークの活用

ユネスコ創造都市ネットワークを活用し、デザインをはじめとした産業施策とも連携を図りながら、クリエイターなどのネットワーク加盟都市との人的交流を支援する事業や、文化芸術を活用したワークショップなどの創造的人材の育成に取り組みます。

○まちなかでの文化事業の展開

まちなかで気軽に文化芸術に親しめるポップアップアーティストを推進するほか、名古屋フィルハーモニー交響楽団と連携してまちかどコンサートなどを実施します。また、本格的な文化芸術に身近に触れる機会を提供するために、アッセンブリッジ・ナゴヤやあいちトリエンナーレを開催します。

○歴史まちづくりの推進

地域に残る身近な歴史的な建造物を「登録」「認定」し、その保存・活用を推進するとともに、文化のみちの拠点である文化のみち二葉館（旧川上貞奴邸）、文化のみち撞木館、城山・覚王山地区の拠点である揚輝荘を、歴史と文化を感じられるまちづくり・文化活動拠点として活用するなどの取り組みを行います。

確かな文化基盤をつくる

文化芸術が活きるまちには、市民が文化芸術を楽しみ、誇りに思い、継承・活用し、また、それを支える人材・場所・ネットワークなどの豊かな土壌が必要です。文化芸術を育む環境を整備し、それを耕す市民ひとりひとりの創造性を高めていくことで、各地域や各世代において文化資本が蓄積され、やがて大きく開花します。これまで取り組んできた、文化芸術がまちに根付く基盤づくりを、引き続き進めます。

文化芸術を享受する機会の充実

- ② 文化施設での公演・展示を行う機会づくり
- ② アウトリーチ活動、まちかど展開など身近な場での体験の機会づくり
- ② 地域の歴史文化や生活文化を新たに発見・開発する取り組みの推進
- ② 文化活動につながるアウトリーチプログラムの研究

文化活動の環境づくり

- ② 技量の向上・情報発信・各種相談など文化活動への支援
- ② 市民文化活動への助成・助言
- ② まちなかの空間や遊休施設の活用
- ② 地域の文化活動の発表・交流機会の充実
- ② 文化施設の適切な管理と改修・整備

子ども・青少年の創造性の育成

- ② 子どもが文化芸術に触れる機会の創出
- ② 子ども・青少年の活動・発表・交流の場の提供・支援

文化施設の管理・運営

- ② 劇場法などを踏まえた文化施設の管理・運営
- ② 文化施設の運営方針の明確化
- ② 舞台技術者の育成
- ② 文化施設における指定管理者制度の適切な運用・評価

❖ アクションプラン ❖

○アウトリーチ事業の拡充

様々な理由により文化施設に足を運ぶことが難しい市民や、これまであまり文化施設に足を運んだことのない市民の文化を享受する権利を確保するために、福祉施設や医療施設などでのアウトリーチ事業に、より一層取り組みます。

○文化施設の改修

安心・安全、快適に文化施設を利用できるよう、天井脱落対策や施設の老朽化対策に取り組みます。また、金山駅周辺まちづくり構想を踏まえつつ、市民会館については、機能の更新を検討するほか、金山南ビル美術館棟については、平成31年度以降のあり方を検討します。公会堂については、鑑賞機能の充実と舞台機能の向上を図ります。

○文化小劇場の活用

市内15館の文化小劇場は、利用者の視点に立った安定したサービスの提供と、文化団体の交流・連携、アウトリーチ活動や社会に開かれた文化活動の拠点となるなど、文化芸術と地域社会とのコーディネート機能を担います。全市的な文化行政の推進と各区の特徴を踏まえた文化拠点としてのバランスを取り、効果的な運用と連携を図ります。

○遊休施設の活用による練習や発表の場の確保

魅力とにぎわいのある商業地づくりや、地域コミュニティ機能の充実を推進する事業として、まちなかにある遊休施設を、文化芸術活動の練習や創作、発表の場として活用する取り組みを支援します。

○子どもの創造力や自己肯定感を育むプログラム等の充実

子どもたちの感性に働きかけ柔軟な発想を身に着けるプログラム、子どもが多様で創造的な活動に継続的に触れながら文化リテラシーを高めるプログラム、自己肯定感の向上やコミュニケーションについて考え直すプログラムなどの開発と普及活動を支援します。

○劇場法などを踏まえた指定管理者制度の運用

文化創造発信の拠点となる名古屋市芸術創造センターと、青少年の文化芸術活動の育成を担う名古屋市青少年文化センターについては、創造性及び企画性が事業の質に直結するという施設の特性に基つき、事業内容の充実、専門的人材の育成・確保や、事業の継続性などの重要性を踏まえつつ、効果的な指定管理者制度の運用のあり方を検討します。

推進体制の構築と展開

本計画の基本方針として「文化芸術を活かしたまちづくり」を掲げるなかで、他分野と連携し、文化力を様々な社会課題に活用する取り組みを推進する推進体制が必要です。こうした機会を活かし、2020年までの4年間に様々な取り組みを展開するとともに、その取り組みを進めるための推進体制の強化をはかります。

新たな文化芸術の推進体制（名古屋版アーツカウンシル）の検討

- ② 新たな文化芸術推進体制の構築
- ② コーディネート人材の育成

多様な連携の強化

- ② 市内連携組織の設置
- ② 名古屋市文化振興事業団との連携強化
- ② 多様な連携を図る意見交換の場の設置
- ② 文化庁・芸術文化振興基金、助成財団などの助成事業の活用
- ② ネーミングライツなど民間活力の活用
- ② 文化振興事業積立基金制度の活用

❖ アクションプラン ❖

○名古屋版アーツカウンシルの検討

文化プログラムをはじめとした広域での様々な取り組みを進めるために、コーディネート機能を中心とした組織の構築し、その組織を名古屋版アーツカウンシルに発展させていきます。

○文化芸術を支える人材の育成

芸術家を支える舞台技術者や中間支援を担う人々を育成するために、様々な主体が行う研修を積極的に利用します。また、関係機関と連携した人材育成プログラムを立ち上げ、技能向上を図るとともに、文化施設へのフィードバックと圏域の施設間の交流を促進します。

○名古屋市文化振興事業団との連携強化

名古屋市文化振興事業団は、名古屋市の文化政策を推進するパートナーであり、芸術家や文化団体などの中間支援組織として大きな役割を担っています。引き続き管理、運営、事業などにおける専門性の高い人材の継続的な育成と確保を進めるとともに、名古屋市への政策提言機能の強化に取り組みます。

○文化振興に関する意見交換の場の設置

文化力が幅広い社会課題に対応していくことから、文化振興に対して、文化関係者だけでなく、産業関係者、観光関係者など様々な立場から意見を交換し、それを活かしていく場として「文化芸術創造会議（仮）」を設置します。

○大学との連携

文化芸術の持つ力について、学術的見地から効果的な活用を検討するため、大学の研究機関やその研究内容との連携を促進します。また、大学の持つ人材やネットワークを活用して事業に取り組むとともに、インターンシップの受け入れなどを積極的に行うことで人材の育成を図ります。

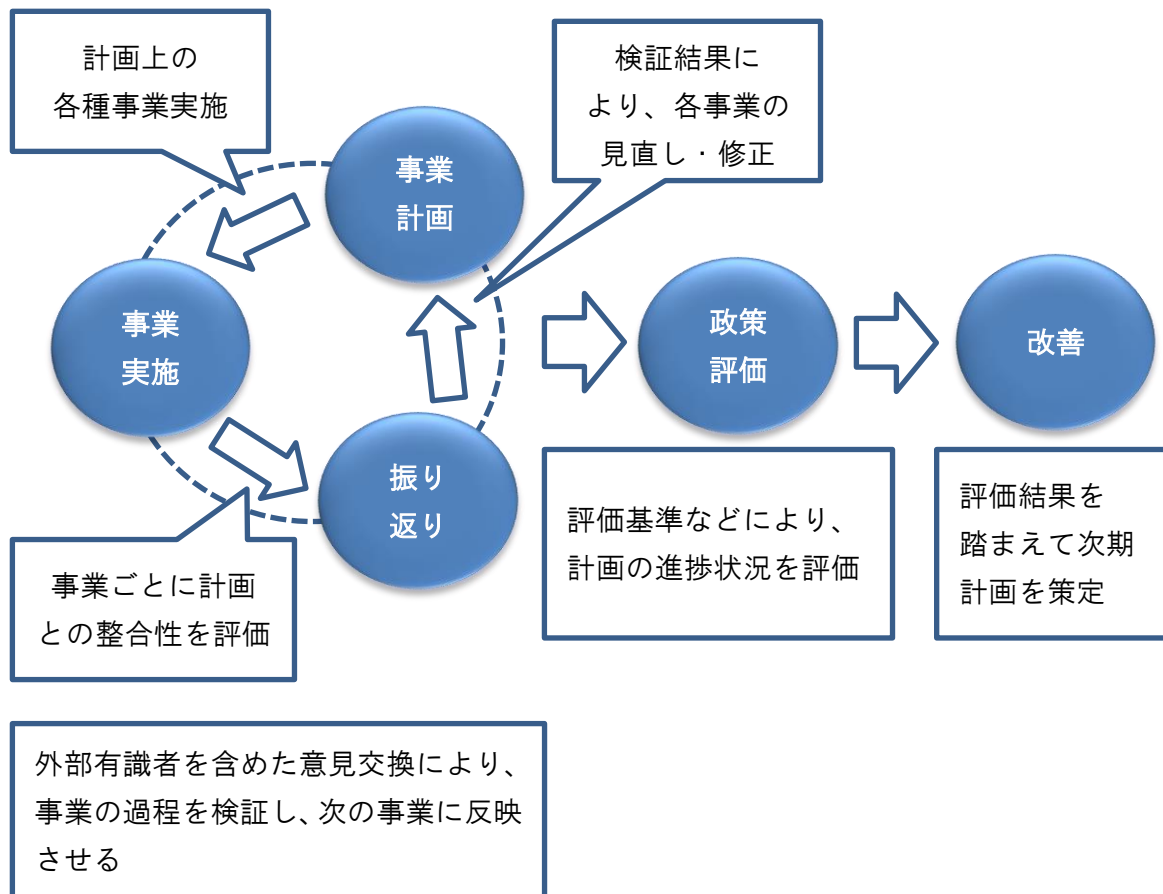
7. 評価方法

❖ 進捗状況に対する評価 ❖

主催者評価・市としての評価・外部評価を活用して改善につなげることで、計画の総合的な推進に取り組めます。

❖ 進捗状況の管理 ❖

毎年度計画全体の振り返りを行い、計画期間中でも進捗に対する修正などを行っています。また、4年間の計画期間の最終年度には計画期間を通じた進捗状況の管理を行い、次の計画づくりにつなげます。



○計画全体の評価指標一覧

指 標	現状値	目標
市民の名古屋文化の評価		
「文化的なまちだと思ふ」の割合	8.8% (H27)	11.4%
「どちらかといえば文化的なまちだと思ふ」の割合	47.7% (H27)	62.0%
市民の名古屋の鑑賞環境の評価(魅力的な公演や展覧会が多くある)		
「そう思ふ」の割合	5.3% (H27)	6.9%
「どちらかといえばそう思ふ」の割合	33.6% (H27)	43.7%
文化をホール、美術館などで直接鑑賞をした市民の割合(直近3年間)	77.2% (H27)	84.9%
名古屋独自の魅力や文化で自信を持って紹介できるものがある市民の割合	68.5% (H27)	76.0%
文化施設利用者数	325 万人 (H27)	358 万人
文化施設利用者満足度	57.5% (H27)	63.3%
芸術家の数	11,700 人 (H22)	12,870 人
文化関連産業		
就業者数	29,768 人 (H26)	32,700 人
事業所数	2,941 事業所 (H26)	3,235 事業所
市民の文化情報の入手環境の評価(公演や展覧会に関する情報が入手しやすい)		
「そう思ふ」の割合	8.6% (H27)	11.2%
「どちらかといえばそう思ふ」の割合	31.8% (H27)	41.3%

